

# 窓

「窓」に寄せる思い  
「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」  
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

## 「新しい時代を迎えて」

所長 渡辺 惣吾



平成から令和へと新しい時代が幕を開け、大きな節目を迎えました。情報通信技術の発展やグローバル化など、急激な社会の変化に加え、世界的な経済危機や大規模な自然災害など様々な困難に直面しており、教育界においても、子どもたちに求められる資質・能力に、変化を生むことになっています。

新学習指導要領は、既に幼稚園では2年目、小学校ではいよいよ来年度から、その後、中学校、高等学校と順次、全面实施となります。新学習指導要領においては、実際の生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力や人間性等」をバランスよく育成するため、「何を」「どのように学ぶか」を重視して授業を改善することが求められます。現在、各校において、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るため「カリキュラムマネジメント」の確立、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働によってその実現を図るための「社会に開かれた教育課程」、新学習指導要領で求める資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の具現、実現に向け、様々な取組、準備が展開されていることと思います。そうした中、日々の授業について不安を抱えている先生方も多いのではないかと思います。

当センターでは、各教科等の専門講座を中心に、新学習指導要領に対応するための講座を充実させています。当センターの指導主事をはじめ、文科省の教科調査官、全国的に著名な講師の方々により、新学習指導要領の具現や研修者のニーズに応じた研修を展開しています。また、当センター指導主事が学校等に直接出向いて研修を支援する出前講座等も行

っております。ぜひこちらの方もご利用ください。

全国的な大量退職、大量採用の流れは本県においても顕著です。新規採用教員の先生方は、大学を卒業したばかりの先生、講師を経験して採用された先生、また、他県等で正式採用の経験のある先生とその経歴も様々です。本県、各市町村、各校の実態、課題、先生方のニーズ等に応じた初任者研修としていくことが重要となり、今後も、関係の皆様と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。来年度、さらなる新規採用者の増加に向け、現在準備を進めています。

次に、県教育委員会では「福島県版 校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を策定し、昨年リーフレットとして配布しています。福井大学の松木健一先生は、育成指標について「自己の職能成長について思いをめぐらせ、将来設計する際の手がかりとなるもの」と述べています。本年度の本県「教職員現職教育計画」は、育成指標をもとに作成されています。また、当センターでも、経験者研修等において、この指標をもとに自分のこれまでの教員生活を振り返るとともに、将来像をイメージし、今何をなすべきか考えるために、有効に活用してほしいと呼びかけています。

研修の重要性について、早稲田大学の油布佐和子先生は、「教師が成長していくことは何かというと、教師が十分に教育活動を行うためには教育研究をする必要があって、その主体的な自主性が前提になっている」と指摘し、主体的で自主的な研修が重要であることを述べています。

当センターのスローガンは、「明日の福島教育をつくる」ですが、本県の子どもたちが未来に向け、そして夢や希望の実現に向け学び続けるために、共に力を合わせ歩んでまいりたいと思います。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地  
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588  
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail [center@fcs.ed.jp](mailto:center@fcs.ed.jp)

# 高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習指導の在り方 ～研究協力校における実践的研究～

## 【第一年次の研究より】

アンケート結果から見えてきた  
高等学校における授業改善のポイント

- 1 探究的な学びや多様な考えにつながる課題設定
- 2 自分の考えを整理、吟味する場の位置付け
- 3 目的を明確にした対話活動の見直しや位置付け
- 4 実感を伴い、知識の再構築や新たな問いにつながる振り返りの充実

授業づくりから見えてきた  
高等学校における授業改善の課題

- 生徒から問いを引き出したり、自分の考えをもたせたりする間や待ちの姿勢
- 探究場面と活用場面を位置付ける単元構想の工夫
- 学習の成果や自分の変容に気付かせる振り返りの充実

## 【第二年次の研究より】

### 「教える」から「学ぶ」へ 授業改善はじめの一步

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

「生徒の学び姿」を大切にしたい授業計画・単元構想を行いましょう。

#### 大切にしたい生徒の姿

課題に興味・関心をもつ



まず自分なりに考える  
考えを表現する



自分だったら

自分の考えを多角的に  
問い直す



考えを比べると



情報を精査して

自分の考えや学んだことを  
振り返る



こう考えればよかったのか

これがそうなら  
あれはどうだろう

#### 指導のポイント

生徒が考えたい課題になっていますか。

- 実社会や日常生活と関連させた課題
- 生徒が必要感や切実感を抱く課題
- 生徒が自分たちで見いだした課題

知識や経験、情報などを基に、自分の考えを明確にさせていますか。

- 学習対象に対する自分の考えを明らかにさせる活動
- 思考過程や考えの表現
- 思考するための十分な時間の確保

生徒の学ぶ過程を重視した学習の充実が図られていますか。

- ～各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を備かせながら～
- 知識を相互に関連付けてより深く理解
  - 情報を精査して考えを形成
  - 問題を見いだして解決策を探索
  - 思いや考えを基に創造

学んだことを整理・確認することで納得・実感させたり、新たな課題を見いださせたりしていますか。

- 学習を振り返り、自分の高まりを実感
- 新たな疑問から、新たな課題を発見

教わって身に付ける知識と、活動を通して自ら獲得できる知識があります。生徒が自ら獲得できる知識を、教え込もうとしていませんか。

## 「教える」から「学ぶ」へ 授業改善への取組

昨年度、県内の高等学校の先生方を対象に実施したアンケートの結果から見えてきた「授業改善のポイント」と、研究協力校である福島県立福島高等学校における実践授業から見えてきた「授業改善の課題」を踏まえ、単元や授業の中で目指す「生徒の学びの姿」と「生徒の学び」が中心となる授業づくりのポイントを整理しました。

今年度は、この整理したポイントを踏まえた実践授業を、昨年度に引き続き、福島高等学校において、国語科、数学科、理科の3教科でそれぞれ行いました。

また、同学年の先生方による互見授業の実施や、授業後の事後研究会の開催等、校内研修の充実についても、取組を推進してきました。

# 協力校実践授業の様子

実践授業は、3名の先生方にご協力いただきました。

国語総合では、生徒自ら獲得した作品解釈の着眼点を使った「問題づくり」や「解答づくり」を通して、作品を読み深めることができました。



数学Ⅱの実践では、図をたよりに、 $\sin(\alpha + \beta)$  が示す部分を式で表現し、グループの話し合いを通して、正しい表現の仕方を見いだすことができました。

物理基礎では、生徒自身が実験を計画し、得られた結果を考察していくことによって、力の概念を更新したり、新たな問いを見いだしたりすることができました。

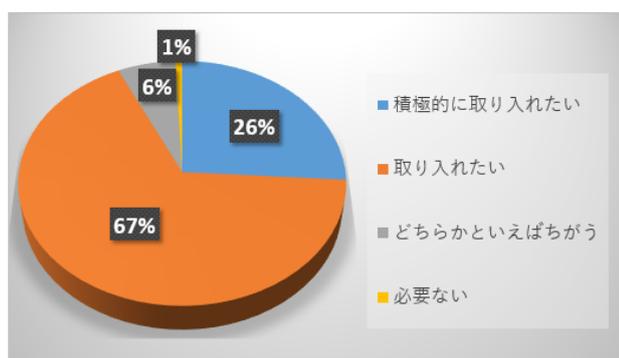
これらの実践を通して分かったことは、生徒自らが活動することによって、新たな知を獲得したり更新したりすることができるのだということです。当チームでは、これらの実践の様子や研究の成果を、Web サイトや研究紀要等を通じて、県内に発信していく予定です。

## 【授業協力者】

国語総合（1 学年）	すぐれた小説を読み味わおう「羅生門」	逸 見 大 介 先生
数学Ⅱ（2 学年）	三角関数の加法定理	名 合 砂紀子 先生
物理基礎（1 学年）	力のはたらきとつりあい	渡 部 華南子 先生

# 授業改善に関するアンケートの結果から

授業にアクティブ・ラーニングを取り入れたい。



回答項目	人数	割合
積極的に取り入れたい（取り入れている）	475	26
取り入れたい（取り入れている）	1225	67
どちらかといえば必要ない	114	6.2
必要ない	13	0.8

昨年度に引き続き、県内の高等学校の全ての先生方を対象にしたアンケート（学習指導実態調査）を実施しました。1800名を超える先生方から、回答をいただくことができました。その中で、「アクティブ・ラーニングを取り入れたい。（または、取り入れている。）」という質問に対して、93%の先生方が肯定的な回答をしています。

高等学校の多くの先生方が、生徒の活動を重視した授業改善に取り組んでいることのと表れであると考えられます。

なお、アンケートの詳細な結果については、第3回県立学校長会を通じてお知らせいたします。

研究の詳しい内容や授業実践、アンケートに関するご質問等につきましては、当教育センター調査研究チームまでご連絡ください。

～教育相談チームからの発信～

## ☆☆教育相談チーム☆☆

研究主題 「よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究」

## チーム研究の紹介

-対話的な学びを支える学級集団づくりを通して-

教育相談チームでは、個や集団への関わりには焦点を当てた校内研修の充実を図ることによって、児童のよりよい人間関係を育むために先生方がどのような指導援助をすればよいのかの「研究」を行っています。提案授業を先生方に参観していただくことで、①教育相談的な手法を使った授業の進め方が分かる。②教師と児童、児童相互の好ましい人間関係の構築の仕方が分かる。③担任は自分のクラスを客観的に見ることが出来る。といった3つの利点があると考えます。今回はその取組について紹介します。

### 提案授業の実際

	第5学年での実践	第3学年での実践
児童の実態把握	<p style="text-align: center;"><b>Q-Uの結果と担任の日常観察から授業のねらいを決定</b></p> <p>実態：言葉遣いの悪さでトラブルになることが多い。思っていることが言えない児童がいる。</p> <p>授業のねらい：自分も相手もすっきりした伝え方を考えさせ、さらによりよい人間関係を築かせる。</p>	<p>実態：普段は仲が良いが、言葉遣いの悪さでトラブルになることが多い。</p> <p>授業のねらい：言葉遣いについて考えさせ、さらによりよい人間関係を築かせる。</p>
提案授業	<p style="text-align: center;"><b>「こんなとき、どう言う？」</b></p> <p>(1) 事前アンケート結果から話し合い、本時のめあてを設定する。                  (2) 3つの自己主張について知り、よりよい主張の仕方を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①勝手に自分の消しゴムを使っているときの注意の仕方                      ②友達が仲間はずれをしようと言ってきたときの断り方</p> </div> <p>(3) 友達とペアになって、よりよい主張の仕方を練習する。                  (4) 本時の活動を振り返る。</p> <p>これからは、自分も友達も大切にしたい言い方ができるようにならなうと思った。これからは、自分の意見をはっきり言えそう。相手も自分も大切にしたい。</p>	<p style="text-align: center;"><b>「ふわふわ言葉とちくちく言葉」</b></p> <p>(1) 事前アンケート結果から話し合い、本時のめあてを設定する。                  (2) 「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を知り、言葉を分類する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①「ふわふわ言葉」を付箋紙に書く。                      ②「ふわふわ言葉」はハートの枠に貼る、「ちくちく言葉」はハートの枠外へ書く。                      ③今後どのような言葉を使っていきたいか話し合う。</p> </div> <p>(3) 本時の活動を振り返る。</p> <p>ふわふわ言葉を使うと、みんなが笑顔になると思うから、ふわふわ言葉をふやそうと思った。</p>

### 事後研究会における先生方の声



- ・日頃はふざけ合って、小さなトラブルはあるが、子どもたちは「もっとやさしい言葉を言えるようになりたい」と思っていることが分かった。
- ・これからも自己主張の練習を取り入れていきたい。
- ・個や集団への支援の在り方を確認する機会となった。
- ・子どもたちの変容を見取ることができた。

### 今後の見通し

今後の校内研修では、インクルーシブの視点から、特別支援教育センターの先生と協力しながら、よりよい個と集団を育むための研修を充実させていきます。

高校英語の授業におけるスピーキング指導、うまく進んでいますか。

2021年1月から実施される大学入学共通テストの枠組みにおいて、民間の英語資格・検定試験の活用による英語の4技能評価が始まります。これに伴い、従来は評価されることが少なかったスピーキング・スキルが評価の対象になります。また、2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領では、現行の「話すこと」領域が、「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の二領域に細分化されます。現行科目の「英語表現」は「論理・表現」になり、ディベートやプレゼンテーションなどの言語活動を通して、英語でやり取りをしたり発表したりする力を伸ばすことが求められます。

スピーキング指導の重要生は高まる一方であるにもかかわらず、英語力調査結果（文部科学省、2017）によれば、授業の中で生徒に話す機会を与えていない教員が非常に多いことが報告されています。スピーキング指導をどう始めればよいか悩んでいる先生方が多いのかもしれませんが、そこで、スピーキング指導の「最初の一歩」を踏み出すコツを、3つの提案という形で提示したいと思います。

## 1 Believe in your students and let them try speaking now!

一番大切なことは、生徒を信じ、「今すぐ」話をさせてみることです。自分の生徒には無理かな、話せなかったら自信をなくしてしまうかも、という不安はあると思います。しかし、下手だからといって選手を泳がせない水泳コーチはいないはず。最初はどう泳げなくても、実際に泳いでみることから得られる気付きは、指導者が手取り足取り教えるよりも遙かに多いものです。先生方が話す時間を減らし、生徒が話す時間を増やしましょう。最初はどうでもできなくても、実際に話す経験を重ねることで、生徒たちは確実に伸びていきます。

## 2 Ask simple and personal questions!

とにかく泳がせてみることは大事でも、初心者に初めから良いタイムや長い距離を求めるコーチを、良いコーチとは呼べません。発達段階に合った適切な課題を与えてこそ、選手の伸びは保証されるからです。これは英語の指導も同様です。目的に応じた、そして生徒の知的・言語的な発達段階に合った、何より生徒が話したいと思えるような面白い発問を与えましょう。身近な話題に対する個人の考えや経験を語らせる発問を与えて、心理的負担の小さいペア（2人組）を基本単位として話をさせることからスタートしましょう。

## 3 Don't worry too much about corrective feedback!

スピーキング活動中に机間指導をすれば、生徒たちの発話には多くの文法・語法上のエラーが含まれることに気付くはず。それらすべてを修正しようとすれば、生徒の活動が滞り、生徒の話す時間が減少します。解決策の一つとして、机間指導などに気付いたエラーを一つ取り上げ、クラス全体で共有・指導してはどうでしょうか。その際、生徒の活動の様子をよく見取って、クラス全体に共有する価値のエラーを取り上げれば、指導の効率は上がりそうです。ただし、話す内容や構成（話す順序）上の問題には早めに対処しましょう。

当センターでは、「発問」と「スピーキング」をテーマにした高校英語教諭向けの専門研修を実施しています。令和2年度も、同様の講座を、新科目「論理・表現」に対応可能なコンテンツも組み込んで実施する予定です。仲間と一緒に授業のアップデートをしませんか。詳細は年度初めに当センターWebサイトで確認してください。

# 長期研究員の研究紹介

当教育センターには15名の長期研究員がおり、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので、県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと考えています。今回は、高等学校の5名、小・中学校の10名の研究内容を紹介します。

## 国語科

### 研究主題 (R1・R2)

「自分の考えを適切に書く力」を育成する国語科学習指導の在り方 - 「共有」場面を重視した単元づくりを通して-

樽井 奈緒子 (川俣町立福田小学校)

「書くこと」の領域において「共有」段階に重点を置いた単元を構想しました。自他の表現のよさを比べ合うことで、児童自ら思考し、自分の考えを適切に書くことができる授業を目指しています。



## 国語科

### 研究主題 (R1・R2)

根拠・理由・主張で考えを形成する国語科学習指導の在り方 - 説明的な文章を読み、根拠・理由・主張を明確に捉える学習を通して-

佐藤 聡嗣 (小野町立小野中学校)

根拠・理由・主張の要素を盛り込み、論理的に自分の考えを形成できる生徒の育成を目指しています。今年度は、説明的な文章を読み、自分の考えの形成につなげる授業実践に取り組んでいます。



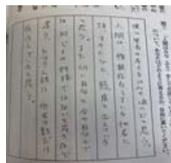
## 国語科

### 研究主題 (R1)

論拠に基づく意見形成につながる評論文指導 - 批判的読みによる文章の読解を通して-

小野 桃子 (福島県立福島東高等学校)

文章を多角的に吟味、検討しながら読むことで新しい気付きを獲得し、それを出発点に論理的な意見を形成することを目指しています。批判的な視点を基に意見文を書き、相互評価を行いました。



## 社会科

### 研究主題 (R1・R2)

小学校社会科における地域との関わりを見いだす授業づくり - 子どもたちが目的意識をもって追究する学習を通して-

松本 哲幸 (広野町立広野小学校)

地域の課題を身近な自分事として捉え、地域のためにできることは何かを考えさせることにより、子どもたちが生活と地域との関わりに気付くことができる授業を目指しています。



## 算数科

### 研究主題 (H30・R1)

問題解決に向けて学び続ける児童を育む算数科授業づくり - 「学びのサイクル」の連続を自覚させる学習過程を通して-

大河 真司 (二本松市立二本松南小学校)

新たな問いを見いださせる問題提示や問い返しにより「学びのサイクル」を連続させ、学び続ける児童を育成する授業実践に取り組んでいます。



## 数学科

### 研究主題 ((R1・R2)

論理的に考え、数学的に表現する力を育む学習指導の在り方 - 根拠をもとにした説明し伝え合う活動を通して-

高橋 良太 (飯館村立飯館中学校)

根拠を明らかにした説明文を記述させたり、考えを広げ深めるための説明し伝え合う場を位置づけたりすることを通して、論理的に考え、数学的に表現する力を育むことを目指しています。



## 数学科

### 研究主題 (R1)

既習の学習内容を活用する力を育成する高等学校数学科の授業の在り方 - 学び直しの内容と本時の内容をつなげる学習活動を通して-

大内 祐司 (福島県立勿来工業高校)

本時の授業内容を解決するために必要な前時までの内容や、本時の内容に関連する中学校数学や小学校算数の内容を復習するための機会を設け、解決の見通しを持たせるとともに、学習意欲の向上を目指しています。



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.

※ 学校名は、所属校（研究協力校）です。

## 理 科

### 研究主題 (R1・R2)

見通しをもって問題解決する理科学習指導一問  
いを自分事として捉え、目的意識をもって観察、  
実験に取り組む活動を通してー

一ノ瀬 辰徳 (西郷村立米小学校)

理科の見方・考え方を働かせた  
自分事の問題解決となるように、  
事象提示や発問を工夫しました。  
ワークシートや対話活動の活用で、  
観察、実験に見通しをもって取り  
組める児童の育成を目指します。



## 理 科

### 研究主題 (R1・R2)

科学的な根拠を基に考察できる中学校理科指導の  
在り方 ー思考を可視化し、見通しをもたせる学習  
活動を通してー

弓田 一彰 (いわき市立中央台中学校)

既習事項や生活体験を柱とした  
導入、根拠を引き出すための工夫  
した対話活動、根拠を明らかにす  
るための思考の可視化を通して、  
科学的な根拠を基に考察できる生  
徒を目指しています。



## 理 科

### 研究主題 (R1)

「科学的な思考力・表現力」を育む高等学校生  
物における学習指導の工夫 ー学習内容を自分事  
としてとらえる活動を通してー

小池 浩幸 (福島県立修明高等学校鮫川校)

「私の問い」を設定する単元導  
入や、概念に関する先人の研究  
についての考察など、学習内容を  
自分事としてとらえさせることを  
通して、科学的な思考力・表現力  
の育成を目指しています。



## 英語科

### 研究主題 (H30・R1)

即興で話すこと [やり取り] の力を育成する指導の  
在り方 ーReaction、Comment、Questionの適用とやり  
取りの視点に基づいたルーブリックの活用を通してー

鈴木 淳子 (白河市立白河中央中学校)

会話を継続・発展させる R、C、Q  
を提示し、活動→ルーブリックに  
よる振り返り→フィードバック→  
活動、というサイクルをくり返す  
ことで、即興でやり取りする力の  
育成を目指しています。



## 英語科

### 研究主題 (R1)

論理的で正確な英文を書くことを目指す学習指  
導について ー生徒の「気付き」を促すエッセイ  
・ライティング指導を通してー

荒木 朋典 (福島県立郡山高等学校)

モデル・エッセイの分析やフィー  
ドバック (生徒間・教員) による気  
付きから、自ら書いた英文の内容、  
構成、文法・語法上の誤りに目を向  
けさせることで、論理的で正確な英  
文を書く力の育成を目指します。



## 教育相談

### 研究主題 (R1・R2)

居心地のよい学級集団づくりの指導の在り方  
ー認め合う姿の日常化を通してー

齊藤 雄策 (福島市立瀬上小学校)

Q-U等による実態把握を基にした  
指導方針の検討や授業実践、朝の  
会や帰りの会等での継続的指導に  
より、児童の認め合う姿の日常化  
を図ることで、「居心地のよい学級  
集団」を目指しています。



## 教育相談

### 研究主題 (R1)

進学指導重点校における、自己表現への意欲を高  
める研究 ー生徒一人一人の自尊感情の向上を通し  
てー

佐々木 理恵 (福島県立橋高等学校)

自尊感情を高めるための自己  
受容を促す活動や、相手も自分  
も大切に作るアサーティブな表  
現方法の学習等を通して、意欲  
的に自己表現ができる生徒の育  
成を目指しています。



## 情報教育

### 研究主題 (R1・R2)

探究のプロセスで情報活用能力を育む授業の在  
り方 ー総合的な学習の時間における情報の収集・  
整理・分析を通してー

佐久間 基 (いわき市立玉川中学校)

「福祉」をテーマとした学習  
の中で、映像資料や思考ツール  
を活用して情報を収集・整理・  
分析することによって、情報活  
用能力を育むことを目指してい  
ます。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、「令和元年度研究紀要  
第49集」に掲載いたします (年度末完成)。なお、これまでの研究紀要を参考にされたい  
方は、当センターのWebサイトから御覧いただけます。どうぞ活用ください。

<https://center.fcs.ed.jp/>



# 令和元年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島 の 教育をつくる ～



当センターでは、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの研究の成果を基に、意見交換や交流を通して本県学校教育の向上に資することをねらいとして教育研究発表会を実施しています。

今年度は、学習指導、教科指導、教育相談、情報教育等について、6会場 18件の研究・実践発表と講演会を予定しています。

講演会は、国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 山森光陽氏を講師に招き、『「深い学び」の実現に向けて』のテーマでご講演いただきます。県内各教育機関をはじめ、教育に関心のある多くの方のご参加をお待ちしております。



- 期 日 令和元年 11月 28日 (木) 9:50 ～ 16:00
- 会 場 福島県教育センター (福島市瀬上字五月田 16)
- 参加申込 10月初旬の二次案内及び当センターWebサイトに掲載する方法によって、申込みをお願いいたします。

多数のご参加  
をお待ちして  
おります。



## Webサイトご利用についてのお知らせ



福島県教育センター  
Fukushima Prefectural Education Center

お問い合わせ ▶ アクセス



平成30年9月にWebサイトをリニューアルしました。より見やすく、使いやすく、親しみやすいWebサイトを目指して、デザインやメニュー構成を一新し、スマートフォンやタブレットにも対応したものとなっております。Webサイトのアドレスは、<https://center.fcs.ed.jp/>です。また、今年度から出前講座の申込みや夕食の変更についてもWebサイトを通じて行っております。今後も県内の教職員など多くの皆様にご利用いただけるWebサイトづくりを目指し、内容のさらなる充実を図り、より活用しやすい情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願いたします。

